

池田山の防災対策は？



森 政郎 議員



金地谷堰(えん) 堤

災害といえば、まず池田山が想起される。過去、倒木が橋桁にかかり水浸し、土砂崩れで道路分断など多くの被害が発生している。

- ① 治山施設や渓谷整備で災害に強い池田町に。
- ② 昨年度、岐阜県実施の「池田山の治山施設点検」結果と機能低下施設の解消策は？
- ③ 池田山の倒木・枯木、渓谷の現状と対策は？
- ④ 池田山中腹を南北に走る活断層への見解

町長

池田町38平方キロのうち40%が池田山で、豊かな恵みの反面、急峻な山で、大小の谷も多く、災害の危険もある下、治山治水を進める。

① 県の41施設点検で、金地谷上流1か所の治山堰堤で計画的な修繕が必要と判定されている。

② 過去には切捨間伐や松・ナラ枯れの倒木被害等が発生。利用間伐への変更で減少。平成25年1月に町内73か所を土砂災害警戒区域に指定し、ハザードマップを配布。状況を確認しながら対策を進めていく。

③ 池田山の活断層は「確実度Ⅱ」逆断層で、深刻な状況からは除外。但し、大地震に誘発されるおそれもあり注意が必要。

再利用したい公共トイレに

池田町内の公共施設、特に駅・公園のトイレはコンクリートむき出しで再利用したいレベルにない。コスト等容易ではないが、採光も考えた気持ち良いトイレの実現を。池野駅改築時にトイレの改修を、北池野駅、霞間ヶ溪(含花畑構想)、大津谷公園も改修計画を。

町長

過去は200万円程度でトイレ建設できたが、立派なものは数千円かかる。資金も考え、順次検討。

池野駅改修は、ふるさと創生事業で実施する。トイレ改修は目的外となるため今回はできない。

霞間ヶ溪公園内のトイレは、文化庁との協議が必要な点もあり、財源を見つけて改修していきたい。なお花畑構想での新増設は考えていない。



コンクリート造の霞間ヶ溪公園トイレ

山麓道路の歩道整備を

山麓道路は、通勤車や大型バスなど交通量が激増。他方、霞間ヶ溪を中心にウォーキング愛好者や観光客も急増。相当数が危険を感じている。今後も、危険増大が予想される。歩道・駐車場の新設や縁石設置等の整備、イベント時に、コーン等での歩車道区別を。

町長

歩道整備はメーター10万円、全線では6億円以上かかる。また、国定公園内は文化庁の承認が必要であり、ハードルが高い。

歩車道区別より、鐘つき堂前から南へ東側の綱引き部へ歩道設置を関係者と協議していく。

また、歩行者天国や縁石・速度規制等についても、地元と今後検討・協議していく。